

第4回日野市生物多様性地域戦略策定委員会 議事要旨

日時：平成28年10月20日（木）18：00～20：00

場所：日野市役所 505会議室

| | |
|------------|-----------------|
| 出席委員： 亀山委員 | 東京農工大学名誉教授 ※委員長 |
| 小倉委員 | 東京農工大学名誉教授 |
| 鶴田委員 | |
| 濱田委員 | |
| 井上委員 | |
| 森川委員 | |
| 篠田委員 | 東京農工大学 |
| 飯田委員 | 東京農工大学 |
| 中西委員 | 樹木・環境ネットワーク協会 |
| 高荒委員 | 環境保全課 |
| 石黒委員 | 環境保全課 |
| 藤田委員 | 環境保全課 |
| 高木委員 | 緑と清流課 |
| 新井委員 | 緑と清流課 |
| 山本委員 | 都市計画課 |
| 岡澤委員 | 区画整理課 |
| 小島委員 | 健康課 |
| 奥野委員 | 学校課 |
| 清水委員 | 学校課 |
| 加藤委員 | 生涯学習課 |

※敬称略

次第

- 1.開会・あいさつ
- 2.報告
浅川アユまつりの活動報告
- 3.議事
 - (1) 前回委員会の議事要点確認
 - (2) 日野市の現状と課題の整理
 - (3) 基本方針の検討
 - (4) 基本理念の検討
 - (5) 目標の検討
- 4.その他

配付資料

- 資料 1：浅川アユまつりの活動報告
- 資料 2：第 3 回日野市生物多様性地域戦略策定委員会 議事要点
- 資料 3：日野市の現状と課題の整理 日野市の生物多様性の概要について
- 資料 4：日野市の現状と課題の整理 生物多様性基礎調査から得られた課題について
- 資料 5：基本方針の検討
- 資料 6：基本理念の検討
- 資料 7：目標の検討
- 参考資料 1：第 1 回浅川アユまつり生きものブース 日野市生物多様性地域戦略アンケート
- 参考資料 2：生物多様性地域戦略フリーペーパー ひののいきもの
- 参考資料 3：第 1 回浅川アユまつり生きものブース アンケート集計結果
- 参考資料 4：第 3 回日野市生物多様性地域戦略策定委員会 議事要旨
- 参考資料 5：生物多様性基礎調査結果 概要版
- 参考資料 6：生物多様性基礎調査から得られた課題の分類
- 参考資料 7：市民参画部会のワークショップから得られた日野市の課題と特徴
- 参考資料 8：生物多様性地域戦略に関連する第 5 次日野市基本構想・基本計画の施策
- 参考資料 9：生物多様性地域戦略に関連する第 2 次日野市環境基本計画の施策

浅川アユまつりの活動報告

※事務局より資料 1 に基づき説明。

前回委員会の議事要点確認

※事務局より資料 2 に基づき説明。

【井上委員】

1 ページにタヌキ、ハクビシンとあるが、アライグマではないか。

【亀山委員長】

アライグマの間違いである。

日野市の現状と課題の整理

※事務局より資料 3、4 に基づき説明。

【亀山委員長】

現状の課題と整理は、地域戦略のどの部分に結び付くのか。

【事務局】

基本方針である。前回の委員会で基本方針を検討するにあたり、日野市の大切な場所が拾い上げられていないという意見があったため、整理を行った資料となっている。

【亀山委員長】

現状や課題を考える時は場所ではなく、日野市全体を見る視点が重要である。地点ごとに見ることも重要であるが、日野市全体で自然がどうなのか、課題がどうなのかという整理が必要である。

【事務局】

その点は戦略の本文を作る時に重要な部分だと認識している。全体についての整理は次回の委員会でお示しする。

【亀山委員長】

そのようにお願いします。

【中西委員】

基本方針を考えていくうえでこのような整理は重要であるが、現状認識として必要なのは時間軸の視点である。雑木林は薪炭林を利用しなくなった社会の構造変化が原因で劣化している。これは用水についても同様であり、農業の衰退によって用水がかつての役割を失い環境が変化している。人々が過去の生活に戻ることは難しいため、時間軸を元にした過去と現在の課題整理も重要である。

【亀山委員長】

日野市全体の変化は生活の変化もあれば、土地利用の変化でもある。そのような全体の変

化を書き加える必要がある。

【井上委員】

80年代の航空写真を見ると、哺乳類の住みかはたくさん存在していた。5、60年ぐらい前の人は日野でもウサギを捕っている。台地、丘陵、川に今ではどれぐらい生きものが生き残っているのか。風前の灯になっている哺乳類がいるので、それは守らなければならない。そういった生きものの現状を地図化して捉える方法もあるのではないだろうか。生きものを守るためには数を増やさなければいけないが、そのためには緑も必要である。どこにどんな生きものがいるのかは、現状と課題として考えていく必要がある。

【亀山委員長】

50年の変化は大きいので重要な部分である。

【中西委員】

今回の資料では生きものの情報がなくなっている。代表的な生きものや具体的な生物名がなくなり、地点の情報が中心となっている。

【亀山委員長】

生きものの視点も重要ですので、資料はバランスよくまとめて下さい。

【事務局】

成果品となる地域戦略をどのようなボリュームにまとめるかによるが、必要な内容については皆様の意見を聞きながら構成を検討していく。

基本方針の検討

※事務局より資料5に基づき説明。

【井上委員】

「育てる」は人を育てるのか、生きものを育てるのか。

【事務局】

両方を想定している。

【亀山委員長】

「つくる」、「育てる」ことは「守る」ことにつながるのではないか。「使う」は生物多様性を活用することが含まれるが、「つくる」と「育てる」は活用には結びつかない。これらは「守る」に含めた方が良いのではないだろうか。

【井上委員】

生物多様性を継承する相手は若い世代になるので、若い世代を育てる視点が必要である。具体的にどのように育てるかは今後議論が必要である。

【亀山委員長】

捉えかた次第で意味の変化する言葉は適切ではない。使い分けられる言葉は使用しないこと。

【中西委員】

基本方針が単語である必要はあるのか。前回の委員会で大切だと感じたのは、人々の関心を高めて興味のある人を育てること、人と自然の関わりを保つこと、日野市の特徴を理解しその特徴を守ることである。基本方針として採用するのは、そういった文が良いのではないか。単語だけでは抽象的であり、混乱が生じやすい。

【亀山委員長】

「関心をもつ」、「かかわりを持つ」、「守り育てる」等の書き方が適切である。その際は何に対してなのか、対象を示した上で記載する。

【井上委員】

「守る」について、生きものを増やす視点を盛り込んでほしい。

【亀山委員長】

「育てる」ことは、まさに生きものを増やすことにつながる視点である。

基本理念の検討

※事務局より資料6に基づき説明。

【亀山委員長】

基本方針は上位計画である基本構想・基本計画と整合をとることと、環境基本計画と合わせる事が重要である。日野市は水とみどりを大切にしている視点が既存計画にあるので、生物多様性はしっかり考えないといけないまちである。継承する視点も既存計画には記載されているので、この部分は踏襲することが正攻法ではないだろうか。水とみどりを守る理由は、そこに生きものがいるからである。

【中西委員】

環境基本計画の体系が地域戦略の基本方針に近いと感じている。過去からの経緯を含めて継承する視点が含まれている。亀山委員長と同じ意見であるが、基本方針もこの視点にならなくてはどうか。

【亀山委員長】

基本理念はこれまでの意見を参考に、次回までに事務局案を示して下さい。

【事務局】

書き方について何点か確認したい。基本方針に市民という単語は明確に示した方が良いか。また、持続可能に生物多様性を使っていくことを示す言葉は必要か。

【井上委員】

人と生きものが共に暮らせるまちであることが日野市の魅力である。その部分が考えの根底にあるはずなので、その視点を明確にしてはどうか。

【亀山委員長】

市民が主役であることは当然であるので示す必要はない。持続可能性について示すことは大切である。

【事務局】

生物多様性という言葉は明記したほうが良いか。

【中西委員】

結果としての生物多様性であるので、明記は不要である。

【亀山委員長】

水とみどりだけでは生物多様性に結び付かないため、生物多様性を示さない場合は、生きものが介在することを示す必要がある。わかりやすい言葉で生物多様性を示すことは必要である。

【高木委員】

生物多様性を活用することについて、「使う」というのはどのようなことを意味しているのか。

【事務局】

農業では農作物が自然の恵みであるが、それは食べることで使っている。また、資源として観光に使うという視点も考えられる。

【高木委員】

具体性があるのであれば、「使う」という抽象的な言葉はかえって内容を難しくしてしまう。

【亀山委員長】

関わりの持ち方が、「使う」ことであるので、そういったわかりやすい表現が必要である。

【鶴田委員】

生物多様性を守ることは人の生活と利害が衝突する部分もあり、緑地の管理などでは生物多様性を大切にすることで人にとって問題が生じている場合もある。生物多様性と人の利害に折り合いをつける方法は、「使う」では表現しづらい部分である。そのため、亀山委員長や高木委員の意見のように、わかりやすく具体的な言葉が良い。

【高木委員】

最大限に関わっていく部分と、人間が一步引く部分、そういったことを示すことが大切である。

【井上委員】

「使う」ということは、人間の都合で一方向的に生きもののことを考えているが、地球上では人間も同じ生きものである。生きものの視点で物事を考えることができれば、考え方が広がってくるのではないだろうか。生きものの都合も取り入れた人間の考え方も必要である。

【亀山委員長】

生きものの都合を考えることは、「知る」こと「学ぶ」ことにとって大切である。

【篠田委員】

基本理念に市民が主役とあるが、生きものも日野市に住む一員だという視点があればしっくりくるのでは。

【井上委員】

人と生きものが主役のまちということになる。

【事務局】

地域戦略は生きもの好きだけが考えている計画だと思われるのではなく、日野市全員に関

係のある計画だと思ってもらえることが重要であるので、そういった方向性で検討を進める。

目標の検討

※事務局より資料7に基づき説明。

【井上委員】

学校や団体が既に活動している内容も情報として示してほしい。

【亀山委員長】

目標は具体的に表現できる内容が良いか、方向性を示すものが良いか、委員の方々の意見を伺いたい。

【森川委員】

「守る」について、人が手を付けないエリアを市で設けても良いのではないだろうか。手を付けないことで、50年後でも自然を残すことができる。

【小倉委員】

その考え方は賛成である。ただし、すべてに手を付けないわけにはいかないため、コアゾーンを定めて、そこを守るためにその周辺を管理するといった考え方が必要である。

【亀山委員長】

コアゾーンとなる部分を持つておくことは重要である。

【井上委員】

施策や行動計画も意見がたくさん出されないといけない部分であるので、並行的に検討を進めても良いのではないか。

【亀山委員長】

目標と行動計画は並行して考えることもできるが、現段階の意見として目標がどういったものであるか意見を伺いたい。

【森川委員】

多摩動物園の活用は重要な部分である。市として活用しない手はない。生きものを増やすことについては、動物園の協力を仰いでも良いのではないだろうか。

【中西委員】

基本方針と目標の違いは何なのか。目標は施策や行動計画が明らかになったうえで、数値目標を設定する場合もある。必ずしも目標を定めた上で、施策や行動計画を定める必要はない。井上委員の言ったように、目標と行動計画を並行して進めた方が良いのではないだろうか。施策を考えるうえで重要なのは、課題がどうなのかである。困ったことや問題となっていることに対しての施策であるので、施策を決めた上で、その後に目標を設定してはどうか。

【事務局】

この場で目標を組み立ててしまうつもりではない。まずは地域戦略の全体構成を示したうえで、目標となる意見をたくさん集め、目標と施策の紐づけを行う想定であった。施策から検討を進めた方が良いという意見であれば、次回の委員会は課題を煮詰める作業を行う。目

標として抜けてはいけない視点があれば、この場でご意見をいただきたい。

【井上委員】

それぞれの委員は専門分野を持っている。課題に対しての意見は各々が持っているはずなので、その意見を集めたうえで課題と施策の整理を行ってはどうか。一番大事なのは行動計画であるので、より具体的に誰が実施するかも検討する必要がある。

【亀山委員長】

現在、目標案として示されていることは施策・行動計画にあたるので、課題を多く示しながら施策を詰めていく作業が必要である。

【事務局】

課題は目標の裏返しとなるので、課題をカテゴリーとして扱い、施策を課題に結び付ける考え方をを行う。

【亀山委員長】

その方が作るプロセスとしては素直である。

【事務局】

日野市として、できるかできないかの検討も必要である。

【亀山委員長】

まずは案として多く意見を集めることが重要であるので、できるかできないかの検討は次年度以降とする。意見を集めるのは地域戦略の面白い部分であるので、多くのアイデアをいただきたい。

【事務局】

目標は一度保留として、次回は課題をベースに施策や行動計画を作る作業を行う。

【亀山委員長】

課題から目標を検討することで、現状と課題に対応した議論をすることができる。

その他

【事務局】

- ・次回委員会は2017年2月14日の火曜日、18時から日野市役所の505会議室で開催する
- ・市民委員に一名欠員ができたため、その補填として次回から新しい方に参加していただく